

政府國民に呼びかく第一聲

第七十二臨時帝國議會開院式において異例なる勅語を拜

承した政府當局は、聖旨奉戴の實行方法として國民精神總

動員運動を起すことに決した、國民への呼び掛け第一聲た

る政府主催國民精神總動員大演說會は九月十一日午後七時

十分から日比谷公園公會堂に於て開催され參集する聽衆三

千を超え場の内外に溢れる盛況であつた。劈頭陸軍戸山學

校軍樂隊、海軍軍樂隊合同の演奏があつて後、演說會に移

り内閣書記官長風見章氏起つて開會を宣し全員起立君が代

の齊唱あつて國務大臣の演說に入り、『時局と國民の覺悟に

ついて』近衛内閣總理大臣の演說あり續いて馬場内務、安

井文部兩大臣の國民精神總動員についての演說あり聽衆に

多大の感動を與へ再び内閣書記官長の發聲にて全員天皇陛

下の萬歳を三唱し奉り午後八時三十分學國一致體制下に於

ける意義深い大演說會の幕を閉ぢた。

同會に於ての馬場内務大臣の演說は左の通りである。

馬場内務大臣演說要旨

本夕茲にお集りの皆様方の、御兄弟方なり御親戚なり、

或は御知合の方々なりのうちには、自ら銃を執つて、砲煙

彈雨の第一線に活躍せられて居る方々も、多數におありに

なること存じます。私は、茲に皆様方の御心勞をお察し

致しますると共に、戦火の巷に於て、凡ゆる困苦艱難を排

しつつ、活躍して居られる將兵諸士に對し、深く深く感謝

の意を表するものであります。

今日の時局は、誠に重大でありまして、軍いくさの場ばに立つ者

も、立たざる者も、齊しく起つて身を公に奉せねばならぬ

秋であります。

去る七月七日北支蘆溝橋に於て事件が起りました際、私

は、實は、これは大變なことに相成つたと思つたのであります。これは大きな事件になるかも知れぬ、先づ以て、大きな事件になつた時の覺悟をして掛からねばならない。然

し乍ら、此の覺悟を持つた上で、どうぞ、戰線が擴大しないで欲しい、蘆溝橋、北平、あの邊を中心とする所謂局地だけで、戰火が収まつて呉ればよいが、一かう思つたのであります。何とかして、全面的に戰鬪行爲を行ふといふ様なことに相成る以前に、支那側が其の非を悟り、深く反省して呉れないものと、日夜念願致して居つたのであります。然し乍ら、これは私の單なる希望であつて、事實は左様には參らなかつた。私共の希望する處、念願する處とは寧ろ逆に日を追ふて戰局は擴大せられ、中部支那に飛び、或は南支に移り、遂に今日の様な事態に立至つて仕舞つたのであります。

皆様も既に充分御承知の通り、我帝國は豫てより、日滿支三國の融和提携を心から希望致し、これが達成に努力して參つたのであります。然るにも拘らず、支那側は、我々

の眞意を解せず、今日の様な状態にまで立至つたことは、何としても遺憾千萬であると申すより外はないのであります。

私の考を以て致しますれば、今回の事變は、蘆溝橋に於て勃發致したものではありませんが、決して故なくして、突然、或は偶然に起つたものではないのであります。其の因つて來る處、即ち根本の原因といふものは極めて深く且遠いのであります。蔣介石の一派乃至は國民黨といふものは、實をいへば、すつと以前から、其の國內統一、或は、其の政權の強化の爲に、排日抗日といふことを道具として使つて參つたのである。此の爲には、先づ何よりも、民族意識と申しまするか、要するに民衆の思想なり頭なりを、其の方に向け、其の方に集中する一つまり平たくいへば煽る必要がありませう。そこで國民政府は、教育とか、教化とか、宣傳とか、凡ゆる機會、凡ゆる機關を利用して、排日抗日の氣運、思想を、煽つて來たのであります。我帝國としては、これに對し、警告、勸告を致し、或は抗議を申込んだこと

も、再三ならずあるのであります。支那側は毫も反省する處なく、彼等の運動は次第に民衆の間に滲み込んで参り、我國の實力や眞意を知らない民衆の一部は、排日抗日といふ反抗的な思想から、更に侮日といふ處まで進んで参つた様な次第であります。勿論此の間に、或る時は政治上の關係より、或る時は四圍の狀勢等よりして、多少空氣の緩和せられたこともあり、更に又、進んでは日支親善といふ様な關係も、唯上面^{うへは}だけで、僅かに見えたこともないではなかつたのであります。其の大本^{ほんもと}の底を流れて居る思想は、終始、排日抗日侮日といふことを以て、貫かれて居つたと見て差支ないのであります。此の様な考へ方、此の様な思想が、時に觸れ折に觸れて、表面に出て参る、先年來、支那各地に於て起りました暴戾なる排日行爲に致しましたも、或は又此の度の蘆溝橋なり上海なりの事件に致しましたも、これらは何れも右の政策、或は思想に原因するものなのであります。かういふ風に考へて参りますと、支那の我國に對する誤つた考へ方、即ち排日抗日の思想と

いふものの根は、誠に深い處にある譯でありまして、決して一朝一夕にして出來上つたものではないのであります。従つて、此の根本の處まで遡つて、徹底的に彼等の反省を促すといふことでなければ、我國と支那との關係は、決してよくはならないと思ふのであります。處でこれが爲には暴戾不法なる支那軍に對しまして、其の戰意―戦争繼續の意志―を失はしめるまで徹底的な打撃を加へて、これを膺懲し、自らの力をはつきりと自覺せしめ、又、其の從來の思想なり日本に對する政策、方針なりが誤つてをつたことを、充分に反省せしめるといふことに相成らねばならないのであります。然し乍ら、何分にも支那の領土は廣大であります。其の人口も一口^{ひとぐち}に四億と稱せられる程であります。又、其の軍隊も、昔の支那軍とは全く趣を異に致し、其の裝備にしても、訓練にしても、決して貧弱なものばかりではないのであります。要するに支那の軍隊は、昔に較べて非常に強くなつてゐる、といふことになるのであります。のみならず、近年の世界思想戰とでも申しまするか、

恐るべき赤化勢力の動きは、極めて活潑且微妙でありまして、我々は此の方面に對して、最も警戒を致さねばならぬのであります。最近、ソ聯邦と支那との間に不可侵條約が締結せられましたことは、皆様既に御承知の處でありませう。赤化の魔手―魔の手は、今や支那全土にまでも擴がらうとしてゐるのであります。

尙又、支那には、諸外國の利害關係やら權益やらが、互に絡み合つて根を張つて居り、なか／＼難しい關係に相成つて居るのであります。

斯様な次第でありまして、あれこれと考へ併せて参りますると、今回の戦は、誠に面倒な戦であると申さねばなりません。殊に又、今日までの戦局の状況を見て居りましても、どうもこれは長くなる、のみならず、其の長くなつた結果は、餘程難しい場面に直面致さねばならぬのではないかと、我々は此のことを豫め充分に覺悟致し、確りと腹を据えて掛からねばならぬと思ふのであります。即ち、如何に期間が長引かうとも、或は又、前途に如何なる困難が起ら

うとも、帝國の目的を達成するまでは、國民一致協力、堅忍不拔の心組を以て、斷乎所信に邁進致さねばならぬのであります。勿論、斯く申しましたからとて、私共が戦を好むものでないことは、いふまでもない處であります。又、一旦戦火の間に相見えましても、一日も速かに鋒を收めることを冀つて居りますことも、これ又申すまでもない處であります。

我帝國が今回決然蹶起致しましたのは、否、蹶起せざるを得なく相成りましたのは、領土とか、利權とか、左様なものを目的とした卑劣な考へから出發したものではないのであります。我々は、暴戻飽くなき支那軍の態度を憎むものであります。國民政府の政權強化、國內統一の具に供せられた排日抗日の思想を排斥するものであります。而して又、恐るべき赤化の魔手―魔の手に對しては、斷乎これを排撃するものであります。然し乍ら、多數の善良なる支那民衆は、決してこれを敵とするものではないのであります。畏くも

明治天皇は

國のためあなす仇はくたくとも

いつくしむへき事な忘れそ

と、御製遊ばされてをります。斯くして我々の念願致すものは、彼と我との提携であり、共存共榮であります。而して又、東亞の平和、東亞の安定であり、延いては世界平和の確立、正義人道の具現であります。更に言ひ換へれば今回の我軍の行動は實に世界人類の正義の要求に適ふものといふべきであります。長くも、先般帝國議會の開院式に當りまして賜りました優渥なる 勅語の中に、

「帝國ト中華民國トノ提携協力ニ依リ東亞ノ安定ヲ確保シ以テ共榮ノ實ヲ舉グル」ことは、夙夜、大御心を注がせ給へる處であると仰せられて居りますが、此の、大御心の御趣意こそ、我帝國の一貫した國是、一貫した方針であります。我々國民たる者は、此の、大御心を奉戴致し、一日を速かに、宸襟を安じ奉らねばならぬと存するのであります。

政府が、此の度、國民精神總動員の運動を起すことと致しましたのも、亦、官民一體、億兆心を一に致しまして、愈々皇運を扶翼し奉らんとする趣旨に出でたものに外ならないのであります。

近年は至る處で非常時、非常時といふ聲を聞きます。然し乍ら、私の見る處を以て致しますれば、今日程の非常時は、見方に依つては、未だ嘗てなかつたと申しても差支ないと思ふのであります。此の様な非常時局に當りましては、國民は、眞に「舉國一致」、「盡忠報國」の精神を鞏く致し、所謂「堅忍持久」、飽くまでも、大國民として立派な態度なり心構なりを示さねばならないのであります。これは決して「氣持の持ち様」といふ程度の、生やさしい考へ方ではならないのであります。我々は、公の生活の上にも、私の生活の上にも、はつきりと實行に移して參らねばならぬのであります。

社會の總ての人々、都市といはず、農村といはず、漁村といはず、老若男女の別を問はず、全國隅々の各家庭の中

まで、悉くこれが慘み通り、全國民が打つて一丸となつて「事に當る」といふことでなければならぬのであります。凡ゆる人々が、各々其の持場持場に應じ、又、其の力に應じ、其の全能力を發揮して、公に奉ずるといふことでなければなりません。

今や、我將兵諸士は、北支に南支に、或は又中支に、凡ゆる困苦缺乏を忍びながら、奮戦中でありませう。私共は、此の將兵諸士に對して、心からなる感謝の念を禁じ得ないのであります。私共は、これらの將兵諸士に本當に心安らかに、皇國の爲、正義の劍を振つて貰ふ様に致さねばならぬのであります。即ち、彼等が露營の夢に結ぶ遙かなる故郷の人々に付て、決して心配をさせないことが第一であります。所謂銃後の護り、これは、第一線の將兵諸士に對する眞の感謝の現はれと申すべきであります。先程も申述べました様に、此の度の戦は、相當に長期に亙るものと覺悟致さねばなりません。従ひまして、銃後の護りに付ても、私共は、充分に永續させるといふこと、即ち徒らに一時

の感激や興奮に終らせるといふ様なことなく、出征將兵諸士の遺家族の慰問、生活の扶助、或は家業のお手傳ひ等に付て、其の必要のなくなりするまで、何年でも、引續いてお世話をするといふことでなければならぬと存するのであります。由來我國には、隣保相扶或は隣保共助といふ言葉があります。御近所の人々が、お互に助け合つて行くといふ美風であります。此の美風は、今日の様な時節にこそ、最も力強く發揮せらるべき時であると信するのであります。皆様は、先年來、準戦時豫算であるとか、戦時經濟であるとか、非常時財政であるとかいふ言葉をお聞きになつて居ることと存じます。昭和十二年度の豫算の金額は、既に新聞紙上等で御承知のことと存じますが、今まで嘗て見たことのない膨大な数字を示して居るのであります。此の結果は、直接間接に、皆様の日常生活にも響いて参ります。税金の負擔も殖えて参ります。買物の値段も或る程度までは騰つて参るかも知れません。日常生活に是非必要であるといふもの—即ち生活必需品—此の種のも

の以外の、所謂贅澤品、或はこれに類したものを使ふことは、暫く我慢をして頂かねばならんといふことにも相成りませう、又、出來得る限り、國産品を使用し、外國の品物は差控へる、かういふことにも、相成らうかと存じます。

非常時の財政經濟の政策を實施して参ります途中には、經濟界にも産業界にも色々と變化が起つて参ります。

國民各位は、よく現在の時局を認識せられまして、如何なる變化が起りましたも、常に心の内に餘裕を持つて、これに對するといふことであつて欲しいのであります。と同時に又、これ等の變化の波に乗つて、暴利―理窟に合はない利益―を貪つたりする様な、不心得な方は、萬あるまいとは存じますが、偶々私利私慾の爲に、大局を忘れ、暴利取締に觸れるといふ様な人々が、若しありとすれば、これは大國民として、誠に恥かしい次第であります。

又、今回の事變の經費を賄ひまする爲、多額の公債が發行せられるのでありまするが、國民各位は出來得る限り無駄な費用を節約して、これに應募致し、以て愛國の至誠を

示されたいのであります。

戰鬪の進行を圓滑ならしめ、又、其の効果を一層大きく致す爲には、軍需品の供給を豊富に致すことは、缺くべからざる處であります。處でこれが爲には現在の我國の生産力や生産設備では、決して充分とは申し得ないのであります。生産力の擴充といふことが、叫ばれまする所以は、茲にある譯であります、これ等の産業に携つて居られる労働者諸君も、或は又、資本家諸君も、總て一體となつて、生産の能力を、一杯に働かせるといふことに、力を致し、所謂勞資協力、産業報國の實を擧げて頂きたいと存ずるのであります。

尙又、私共が茲に特に氣を付けて居らねばならぬものに爲替相場といふものがあります。これは御承知の通り、現在では、對英一志二片といふことに相成つて居り、政府は此の相場を維持することに、努力致して居るのでありまするが、此の爲替相場といふものは、我國の經濟力を、外國がどの程度に信用して居るかといふことを示す物指おびさしのやう

なものであります。これが崩れましたは、我國の經濟界といはず産業界といはず、或は又、貿易に致しましても、大變な打撃を受けることに相成ります。國際收支の均衡或は改善といふ様なことが言はれますのは、此の邊のことであります。私共は、これ等の點を充分に頭の中に置きまして、今日の時局柄、我慢の出来るもの、節約の出来るものに付ては、能ふ限り輸入を差控え、時局の要求するもの、即ち軍需關係のもの、或は國外に輸出する品物の材料原料等の輸入に事缺かぬ様に致し度いのであります。

次に、私は資源の愛護といふことに付て、一言觸れて置き度いと存じます。我國の資源が、豊富でありませんことは、今更私から申述べるまでもないことと存じますが、私共は、此の資源を出來得る限り有効に、能率的に使用し、同時に又、將來を考へまして、これを蓄積致して置くといふことに、意を用ゐなければならぬと考へるのであります。これが爲には、或は、消費の抑制、代用品の使用、廢物の蒐集利用とか、發明發見に努力致しまするとか、國防に有

用な品物を献納致しまするとか、各種の方法が考へられるのであります。此の邊のことも、充分に心に留めて置いて置き度いと存じます。

以上、段々と細かなことを申述べましたが、要は、總て己を空しうして公に奉ずるといふことであります。今日の難關は、我帝國の生成發展、國進途上に横はる難關でありまして、我々は、如何にしても、これを乗り越えて行かねばならぬのであります。千歳一遇とも申すべき此の艱難の時局に遭遇し、眞に日本國民の力をはつきりと示す機會を惠まれましたことは、國民として、寧ろ本懐と致さねばならぬ處であります。

今や、我が忠勇なる將兵諸士は、我日本民族、我帝國の高遠なる使命達成の爲、其の身を鴻毛の輕きに比して、奮戦中であります。これ等將兵諸士の勞苦を思ひ、崇高なる犠牲を想ふの時、我々銃後を護る者の責任の誠に重く、且又、誠に大なるものあることを痛感致しますると共に、彼等將兵諸士の心を心と致しまするならば、我々は如何なる

負擔を荷ひ、又、如何なる犠牲を拂ひませうとも、自ら進んでこれを甘受せんとする勇猛心の湧然として湧き出づるを禁じ得ないのでありますが私は、これこそ眞の日本精神の發揚であると考へるのであります。畏くも

明治天皇に於かせられましては

國を思ふみちにふたつはなかりけり

軍のにはにたつもたたぬも

と、御製遊ばされて居ります。私共は、此の、大御心を奉戴し、國民精神總動員に向つて邁進せねばならぬと考へるのであります。國を愛するの心は、力であり、光であります。日本精神の發揚、國民精神の總動員、これを私は國民各位に向つて、此の席より力強く呼び掛け度いのであります。

内閣訓令

各官聽

第七十二回帝國議會開院式ニ當リ優渥ナル勅語ヲ賜ヒ帝國ノ嚮フ所ヲ明ニシ國民ノ進ムベキ道ヲ示サセ給ヘリ 聖慮宏遠洵ニ恐懼感激ニ禁ヘズ

惟フニ今次ノ事變ハ其ノ由ツテ來ル所遠ク事慮ノ推移亦遽ニ豫斷ヲ許サザルモノアリ

此ノ秋ニ當リ職ヲ官ニ奉ズル者ハ齊シク時局ノ重大性ニ鑑ミ堅忍不拔ノ志操ヲ堅持シテ今後ニ來ルベキ如何ナル艱難ニモ堪ヘ和協一心奉公ノ至誠ヲ致シ以テ所期ノ目的貫徹ノ爲ニ邁進スルノ決意アラシク要ス

凡ソ難局ヲ打開シ帝國ノ興隆ヲ圖ルノ道ハ我が尊嚴ナル國體ニ基キ盡忠報國ノ精神ヲ振起シテ之ヲ日常業務生活ノ間ニ具現セシムルニ在リ今般國民精神ノ總動員ヲ實施スル所以亦此ニ存ス

宜シク思フ現下ノ時局ニ致シ日本精神ヲ昂揚シテ率先之ヲ實踐ニ具現シ愈々國力ノ増進ヲ圖リ以テ皇運ヲ扶翼シ奉ランコトヲ期スベシ

昭和十二年九月九日

内閣總理大臣公爵 近衛文麿